

地元を守る消防団！いち早く現場に到着し初動体制を確立！

8月30日（火）に令和4年度広島市総合防災訓練（捜索・救助・救護訓練）が佐伯区石内南5丁目1番：西風新都消防訓練場で実施され、広島市佐伯消防団石内分団が参加しました。

この訓練は、大規模地震（五日市断層を震源とする最大震度6強）により、複数の建物が倒壊し、多数の死傷者や行方不明者がいるという想定で、消防のほか、自衛隊、警察など17機関、約200人が参加して連携した訓練が行われました。

訓練が開始されると、地域の安全、安心を守る「佐伯消防団石内分団」が、最も早く現場に到着し、関係者から重要な情報を得るとともに、倒壊した建物付近で負傷者の確認や建物の中に取り残された方の捜索を行いました。

また、付近で埋没車両を発見！車の中から負傷者を救出し、消防隊と協力して救護所に搬送しました。

訓練は、「ブラインド型」といわれる事前に隊員らに詳細を知らせない本番さながらの形で行われましたが、日頃から行っている現場での指示・命令・報告が的確に行われ、規律ある行動とともに緊張感のある訓練となりました。

佐伯消防団では、佐伯消防署とともに、消防隊と連携した「ペア訓練」を実施し、消防団活動の持続可能性を高めて、地域防災力の充実強化を図っています。

広島市佐伯消防団石内分団 先遣隊活動



搜索活動と救出活動状況



